

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日	2023年1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 2月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事・入浴・排泄等日常生活の中で心身の機能訓練を行う事により、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して生活を営む事が出来るように支援しております。地域の行事(清掃作業等)に積極的に参加し、交流を図っており、地域行事や通院等の際に、地域の方から認知症についての相談や入所の相談を受ける機会があり、また、直接ホームへ相談に来られる方もおられます。入居者のご家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れをいただく機会もあり、地域とのつながりの拡がりを感じております。(新型コロナウイルス感染症の関係で、地域とのつながりは減ってしまっている事が残念です)ホームの裏の土地をご厚意により無償で貸していただき、無農薬野菜づくりによって採れた野菜がホームの食卓で利用者に食され、好評を得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯にある自然豊かな場所で、隣接する土地に事業所の畑があり、職員が野菜を栽培し、3食とりたての野菜を食材調理に使うことが出来る。その他にも地域住民から果物や野菜の差し入れを頂く機会も多く、地域住民との付き合いにも繋がっている。コロナ禍となり、日々の感染対策の徹底や健康管理に努めることで、利用者はじめ、介護職員全員が感染者ゼロを継続している。事業所で働く職員は、代表者・管理者とも上下関係を意識し過ぎることもなく、運営面やケアの改善に対して、率直に伝え、相談し合える社風がある。設立して5年以上経つが、離職率は極めて低い状況にある。事業所は利用者の主体性や、思いに沿ったケアや、自立支援にも努めており、入居時には重度の要介護状態だった利用者も、ホームでの介護を受けることで、身体的にも、認知機能的にも改善が見られる利用者があり、その利用者の在宅復帰の可能性を関係者とも、現在検討しており、重度化予防、自立支援ケアに取り組んでいる点は高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたの想いに気づき」、「思いやりの心を持ち」、「安心して暮らせる生活」を3つの理念に掲げ、月1回のミーティングで職員が共有出来るように、復唱し、確認をし、実践につなげています。	事業所は開設時に、代表者、職員一同で話し合いながら作成した基本理念を掲げ、「あなたのやりたい気持ちを大切に」、「人に対する思いやり」、「家族や地域との絆を大切に」、「ふれあいを大切に、安心して暮らせる生活のパートナーとして」を念頭に支援の実践に取り組んでいる。毎月のミーティング時には、理念を唱和し、確認を行いなら、全職員で理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に参加していますが、新型コロナウイルス感染症の収束が見られないことにより、行事の自粛によって、交流の機会が減っている状況であり、ご家族や地域の方々との交流の場としての、事業所のクリスマス会も、今年度も利用者職員のみ会となってしまう、残念に思っております。	事業所は自治会に加入し、自治会長が直接事業所を訪れ、行事案内や変更等について報告を受けている。地域の方から差し入れがあり、敷地内の畑 やビニールハウスで栽培した野菜や果物と交換 し合う機会が日常的にある。毎月定例の地域清掃に職員も参加している。コロナ禍以前は利用者も清掃に参加し、今後も地域とのつきあいを継続していきたい考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事で、地域の方から認知症の相談を受ける事が有りますが、新型コロナウイルス感染症の関係で、地域の方々との直接のつながりを持つ機会が減っており、残念です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、今帰仁村役場の職員や崎山区長、ホーム開設にあたり、土地を譲ってくれ、役場や地域住民への理解を得るための働きかけ等でご協力をいただいている方に委員をお願いしておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、会議に外部委員の参加をしていただけないことは、非常に残念であります。職員による会議の内容等については、役場等に会議録を送付しております。	新型コロナ感染拡大防止のため、運営推進会議の開催は職員は事業所内で話し合い、外部委員へは事業所の運営活動状況を文書にて報告し、助言意見等を収集しながらの開催としている。議事録や外部評価結果は玄関先にファイルを設置して公表を行っている。運営推進会の各委員には、郵送で報告を行っているが、その返答、意見要望が得られていない状況にある。	新型コロナ感染による実際の対面式会議が自粛される中ではありますが、外部の委員からのご意見や課題に対する助言が、もっと得られる方法と改善が求められる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今帰仁村の職員が運営推進会議に参加いただけるよう配慮いただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の関係で、会議に参加していただけないので、ホームから随時、ホームの状況等を報告し(役場からも入所状況等の確認の問い合わせ有)役場を訪れる方々にホームを紹介していただけるよう、協力体制を組んでいます。	計画作成担当者は、定期的に役場窓口を訪れ、空き状 況について報告したり、新規入居の紹介等についても連携を図っている。コロナウイルスワクチンの巡回接種についての説明を受けたり、今後の感染対策や発症時対応についても、役場と連携をはかりながら対応の強化を図っていきたくと考えている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは、基本的に身体拘束は行わないということを重要事項説明書に記載している。また、ホームの身体拘束適正化のための指針を作成し、職員一人ひとりが、身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止みに向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいます。	身体拘束をしないケアについて、サービス利用開始前に利用者・ご家族に説明をしている。身体拘束等の適正化指針やマニュアルは整備されている。職員は研修・勉強会を開催し、2か月に1度、運営推進会議の機会に身体的拘束等適正化委員会も行なっている。現在、利用者への身体拘束は行っていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって安全と安心の場所であることを大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者のご希望に沿った支援が出来るように努めています。	虐待防止についての指針・マニュアルが整備され、職員は、不適切なケアと虐待・高齢者虐待への対応等のオンライン研修を受講している。管理者は、利用者との対人援助の際でのスピーチロック等の気になる対話でも、「何分待つてね」と具体的に返答するよう指導し、ケア全般において利用者に不快な思いを与えないよう気を配っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームを立ち上げる前から、権利擁護については学んできたが、今後も職員会議等の場で話し合いながら、活用して支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約にあたっては、利用者にホームの見学や試し入所をしていただき、利用者の入所の確認をいただいた後に、重要事項説明書に沿って利用者やご家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサイン(押印)していただき、入所していただいています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には、ご意見箱を常設して、ご意見・ご要望をお聴きしています。また、運営推進会議に利用者及びご家族の代表者に参加していただき、ホームの活動状況の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。(新型コロナウイルス感染症の関係で、外部委員の参加による会議の開催が出来ないので、随時、ご意見やご要望をいただけるようお願いしている)	意見や要望は、日々の支援、コミュニケーションの中で聞き、家族とは面会や電話で意見等を聞くようにしている。コロナ禍で面会出来ない状況の中、もっと面会したいと要望があり、県内の感染状況も落ち着いてきたので、現在は感染対策を講じて家族との面会がもてるよう調整しており、家族や利用者から面会ができて嬉しいとの声が聴かれている。今年は外出、ドライブなど意見や要望に応えていきたいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回以上開き、職員の意見や提案を聴く機会としています。	管理者は、業務の中や会議の場で運営に関する意見を聞くようにしている。各職員の勤務の休みの調整や、身内に介護を必要としている職員へも柔軟に勤務調整をはかるなど、職員間でも協力合っている。去年度、男性用小便器を設置したが、職員の熱心な提案があったので実現できたとのことで、今後も職員の意見を建設的に実施していきたいと考えている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が働きやすい職場を目指して、職員個々の「やりたい事」の希望を聴き、話し合いを持って、職場環境の整備に取り組んでいます。	事業所は、良好なチームケアを実践できるよう、忌憚なく率直に話し合える社風があり、報告・連絡・相談が円滑に行われている。その影響からか、設立して5年以上経つが、介護員の離職率は極めて低い状況にある。法人代表は職員のスキルアップ、処遇改善のために、処遇改善加算の取得を検討しており、職場環境の改善のためにも加算が実施できることを期待したい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者との関わり方等で悩んだ時には、経験豊富な職員にいつでも相談できる状況・環境づくりに取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。また、支援等についてのアドバイスをいただいております。サービスの向上に役立てています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約にあたっては、家族による入所希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要なら体験入所をしていただき、入所していただいている。また、日常生活においても、本人の困っていることや不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、家族には出来るだけ面会に来ていただき、利用者の様子を見ていただきたいと思います。面会の際に感じた事やご要望等を聴かせていただき、ご家族との信頼を築くように努めているが、感染症の拡大防止の観点から、面会等の自粛をお願いしている状況でもあり、直接意見を聴く機会が減っているのは残念です。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり、本人とご家族には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも、本人やご家族の要望を聴かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事(洗濯物をたたむ等)を、利用者に手伝っていただいている。また、利用者の持っている色々な知識等について、職員が教えていただくという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでもいいので、面会に来て、利用者の様子を見ていただくことにより、利用者の心の安定を図り、安心して生活できるように、また、要望を聴かせていただき、サービスの向上に努めたいので、是非に面会に来ていただきたいと思っているが、感染症の拡大防止の観点から、面会の自粛をお願いしなければならず、面会の機会が減ってしまっている事が残念です。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方や場所等の関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り、面会に来ていただいたり、必要ならば、職員の送迎で関係が途絶えないように努めてきたが、感染症の拡大防止の観点から、ご家族を含め、面会の自粛をお願いしている状況であり、面会の機会が減ってしまっている事は、残念です。	コロナ禍により面会制限が行われているが、親族や兄弟の方々への電話での対話の支援を行っている。利用者の希望があれば馴染みの美容院へ出かける支援は続けて行っている。選挙の機会があれば、家族と一緒に投票に出かける利用者もあり、感染予防をはかりながら、馴染みの人や場との関係継続の支援を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いである事も多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会を捉えて、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由が、利用者の入院等により、ご家族の希望で退所されるケースがほとんどであり、契約が終了した後も、入院先に面会に行き、本人はもとより、ご家族にも喜ばれた事があったが、必要に応じて、本人やご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人やご家族と話し合いのうえ、本人の本位が叶うように努めています。	会話や意向が聞ける利用者からは、暮らしの意向をお聞きしている。会話が難しい利用者の方は、家族から情報収集し、本人の表情や声掛けへの反応を読みとりながら、職員間でも話しあい思いの把握に努めている。タバコを吸う利用者へは、外で喫煙できる場を設けて喫煙してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との普段の会話の中で、一人一人の1日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者(介護支援専門員)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成しています。	アセスメント、ケアプラン作成、評価においても利用者及び家族や医師等から意見を聴取し、計画作成担当者(管理者)が職員の意見を聞いて介護計画を作成し、3か月に1回のモニタリングを実施している。長期目標を1年、短期目標を3か月とし、見直しが必要な場合には再アセスメントを行い、ケアプランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人別記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者代表や利用者家族の代表に出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加し、地域資源を利用して、本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(クリスマス会等)にも地域の方々に参加していただけるように努めていますが、感染症の拡大防止の観点から、クリスマス会にはご家族も含めて参加していただけないことが、残念です。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所等)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っています。	入居前より馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう、通院可能な方は基本、家族が対応している。入居後初回の受診は必ず職員も立ち合い、情報の共有や相談できる関係を築いている。初回受診以降は、医療機関へ直接FAXで情報提供を行い、受診結果に関する情報は医療機関、家族ともに確認出来ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師の配置が無いため、地域の協力医療機関の医師や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、家族と共に職員も面会等を行い、利用者が安心して治療できるようにつとめており、病院関係者とも連絡を取り合い、情報の共有による関係づくりを行っている。利用者の中には、病院からの紹介で入所された方もおられます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、ご家族には契約時の重要事項説明書にて説明はしているが、看護師の配置が無いので、緊急の場合には近隣の医療機関に搬送するしか出来ないため、その辺の事をご家族に説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえ、方針を決定しています。	事業所は家族へ契約時に、重度化や終末期に対して、対応が可能なこと、困難なことなどを説明し、意向を確認している。意向を踏まえ、事業所は対応しうる最大の支援方法を職員間、かかりつけ医など関係者で共有し、変化に備えて話し合いや連携体制作りに取り組んでいる。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、職員会議の際に、応急手当や初期対応の話し合いをしており、また、ネット配信契約(お茶の水ケアサービス学院)による研修も行っている。 職員の家族が看護師をしており、褥瘡の処置について、指導をしてもらっている。	利用者の身体状態の急変や事故発生時に、適切な対応が出来る様に、介護技術動画マニュアルネット配信での研修や外部看護師による勉強会を通して応急対応の確認を行っている。事故防止対策に、ヒヤリハット報告を早めに発信することを心掛け、問題点を探り、安全意識を高める取り組みを行っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害対策については、職員会議の際に検討・確認をしている。また、避難訓練の計画・実施をしているが、利用者が高齢であり、脚の不自由な方も多いので、普段の会話の中で意識の向上を図っている。今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知している。地域の防災訓練は行っていないという事であるが、非常時の協力体制の構築を図っていききたい。	年2回、昼夜を想定した避難訓練の実施あり、避難誘導策に対応できるよう取り組んでいる。非常用飲料品は1人分ごと詳細が記載された段ボールに梱包し、定期的に点検が出来る様に管理されている。事業所はオール電化の為、台風などの停電に備えて、蓄電池導入の検討をしている。感染症に対する研修へ職員全員参加し、予防や対策に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。それぞれの部屋については、利用者のスペースという事で、他者が勝手に部屋に入る事は禁止している。(利用者・職員共に共通認識のもとで) また、言葉がけ等についても、配慮して対応している。	職員は利用者の知り得たプライベートな情報は、他言しないよう個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。また本人らしい生活を大切に、やりたい時にやりたいことが出来る様に、普段から意識的に思いを汲み取る姿勢で支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置して、いつでも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。外出や食事等の希望については、利用者に聴く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。(感染症予防から、外出についてはドライブのみとし、食事面での配慮を中心に利用者の希望を受け入れ、実施している)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意思を大切にしつつ、健康状態等を常に把握しながら、本人の希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しており、本人の希望により、家族とも連携して、美容院や理容院に送迎している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理をする事は出来ないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようにしている。 また、好みの食事が摂れるようにしている。	食事は3食とも職員が担当制でメニュー作成から食材購入、調理まで行っている。また自家製の野菜や地域住民から頂いた旬な食材を取り入れ、利用者も一緒に簡単な下ごしらえに参加されている。季節感を味わえるように行事食を大切にし、誕生日など特別な日はリクエストを取り入れ、食への楽しみを工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や力、習慣に応じた支援を心掛けている。(誤嚥が心配な方には、トロミやミキサー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に気をかけ、声掛けや本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。(義歯の手入れや健康体操等) 利用者の歯科治療は、近隣の歯科医療機関で行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に失敗しても、「大丈夫だから」と伝え、失敗したらシャワー浴をしていただき、場合によっては、職員が洗浄等の支援を行っている。 また、オムツを使用されている方についても、本人の意思により、トイレに行けるように支援を行っている。	事業所は排泄の自立に向け、個々の排泄パターンや生活リズムに沿った支援と環境整備を実践している。男性利用者の排泄を可能にする為、小便器の設置を行い、排泄に対する意欲や自信の回復を取り戻した事例がある。また重度の方に対して、バリアフリー便器を設置し可能な限りトイレでの排泄が出来る様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前からほとんどの方は便秘のため、必要な方には医師と相談のうえ、服薬を行っている。 また、水分を摂っていただくよう支援を行っているが、利用者の中には、味の付いた飲み物を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるので、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもらうように取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に設定しておらず、本人の希望でいつでも入浴できるようにしている。一時期、簡易浴槽を設置したこともあったが、利用者がシャワー浴のみで良いとのことで、安全面も考慮して、シャワーのみの使用とした。シャワー浴は、職員の介助により、ほぼ1日おきの実施。利用者の状態によっては、声掛けのみで、ご自身で入浴され、見守りのみの方もいます。	利用者の意向を大切に、入浴日は固定せず、入るタイミングを見分けながら、支援できるように体制作りをしている。浴室出入口に手作り暖簾を掲げ、一目でわかりやすく入りやすい雰囲気への配慮もされている。入浴は自身で出来る動作は見守り、本人の力発揮に繋がる支援を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可のもとで職員が行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は基本的には、家族に行っていたが、必要に応じて職員が付き添い、薬の目的等について医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っている。ご家族が通院及び薬の受け取りを行った場合は、家族から薬の目的等を引き継ぎ、薬の保管及び服薬の支援を行っている。また、職員が医師や薬剤師に直接説明を求める事もある。	事業所独自の「3つの目で確認しよう」を開所時に作成・掲示し、服薬の手順を徹底している。職員ひとり一人が意識し習慣化している為、開所以来、飲み忘れや誤薬に関する事故はなく、安全対策が継続されている。また事業所代表が服薬変更後もわかりやすく把握できるように、早見シートを作成し工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々は、外出を楽しみにされている方が多く、本人の希望等も聴きながら外出の機会を設定し、気分転換等の支援をしており、外出の際は、外食の機会を設定していたが、感染症の拡大にともない、外出の機会も設定できないため、ドライブのみや、普段の食事の際に、寿司やファーストフードを注文し、嗜好品を食べる機会とした。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足の不自由な方が多く、自分で外出が出来ないため、ホームの車でのドライブ等を楽しみにされている方が多かったが、外出自粛のため、ドライブを1回実施した。また、利用者の中には、一人で散歩や外出をされる方がおり、本人には、何かあったらすぐに連絡をくれるように伝え、気をつけて外出するように声掛けしている。また、黙って抜け出す方もおられて、転倒が心配されるため、職員が付き添って散歩をしている。	気分や天候に合わせ、ベランダへ出て事業所隣にある畑の野菜観賞を楽しんだり、玄関先のベンチに腰掛け戸外の空気に触れるなど気分転換を図っている。また近くの公園まで散歩が日課の方に対し、地域住民の協力を得ながら、自身のペースで過ごせる様に見守り、生活や地域との関係の継続を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人の自己管理で所持されている方もおられる。以前は、ホームで5千円を預かって、本人の希望する物の購入時に使うようにしていた事もあったが、外出の自粛や通院も家族の対応となったため、預かっていない。必要な時は、ホームで立替で、後でご家族に請求している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を所持されている方もおられますが、必要に応じて、ホームの電話を使用していただく事もある。また、ご家族等から電話があれば、取り次ぐこともあります。ほとんどは、職員がご家族の話を伝える事が多い。手紙については、そのまま、本人に渡しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共有空間(ホール)に飾りつけ(クリスマスツリー・ひな人形・花等)を行っています。	居間兼食堂には天窓があり、日中は自然光が差し込み、明るく開放感が味わえる心地いい空間になっている。また定期的な空気入れ換えで、ウイルスや細菌など増殖のリスクも少なく感染対策防止にも繋がっている。所々に事業所で育てた花やひな人形を飾ったりと季節感を楽しめるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は、共有空間(ホール)で大型テレビ(65型)を見て過ごされている方が多いので、ライブラリーでDVDを借りて、沖縄芝居等を観る機会を設けている。 また、10時頃より、カラオケ機器を使って体操(ラジオ体操・ゆったり体操等)を行い、カラオケをしたりして過ごしてもらっています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使えること(火器等危険な物の持ち込みは禁止)を基本としており、他の者(他の利用者・職員)が勝手に部屋に入る事を禁止しています。 職員による部屋の掃除等についても、本人の許可を得てから行う様にしています。	居室内は木目調で木の温もりが感じられ、落ち着く雰囲気になっている。また使い慣れた家具や小物、仏壇など馴染みの物が持ち込まれ、本人らしく過ごせるように配慮されている。起床後の窓開けや換気口設置にて、空気を入れ替えし常に衛生的に保てるように感染対策に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が自分の力で行う事(他の利用者に危険がおよぶことがない事)が出来る事については、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援していきたいと考えています。		

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 3 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	外部委員からのご意見や課題に対する助言が、もっと得られる方法と改善が求められる。	外部委員からのご意見や課題に対する助言が得られるよう工夫する。	新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきており、来年度からの会議は、外部委員の参加による会議が開催出来ると思っています。外部委員が不参加の場合でも、事前にご意見をうかがうための用紙の配布、電話にてのご意見の聴取等工夫をします。	2ヶ月
2	12	常に、職場環境の整備に努めているが、より一層の環境整備を図るための処遇改善加算については、まだ未取得である。	職場環境のより一層の整備のため、処遇改善加算を取得する。	職場環境の整備を図り、処遇改善加算の取得を目指す。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。